

子ども多文化共生センター通信(テラたま通信)

Multicultural Children's Center News

第92号

発行元 子ども多文化共生センター (Tel. 0797-35-4537)

発行日 2024(令和6)年9月20日(金)

ホームページ <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>



テラたま
(イメージキャラクター)

9月の下旬とは思えないほど暑い日が続いています。2学期が始まり1ヶ月近く経ちますが、いかがお過ごしでしょうか。この夏は、平和の祭典パリオリンピック、パラリンピックが開催され、わたしたちにたくさんの感動と興奮を与えてくれました。テレビなどに釘付けになった人も多かったのではないのでしょうか。オリンピックでは今大会初めて、参加選手の男女比が同数になったとのこと。近年、女子選手の比率が高まってきましたが、ついに男女同数になったとのこと、新しい時代の到来を感じさせます。まだまだ暑い日が続きます。熱中症など、体調に気をつけて長い2学期を乗り切りましょう。

◎センターの展示&第1回サポーター交流会を行いました。

6月14日(金)、15日(土)に行われた県立国際高等学校、県立芦屋国際中等教育学校の文化祭で、当センターも、展示を行いました。世界各国の民族衣装、楽器、玩具を展示していろいろな国の文化を紹介しました。2日間で約160名の方々が来てくださいました。また、14日(金)には、第1回サポーター交流会を行いました。11名のサポーターが参加しました。和やかな雰囲気の中、日頃の支援での困ったこと、嬉しかったことなど、活発に意見を交換し合い、有意義な時間となりました。以前に支援していた子どもと文化祭会場で再会できたサポーターもいて、成長した子どもの姿をみて、とても嬉しそうでした。



★「外国人児童生徒等に関する就学支援ガイダンス」を実施しました。

市町教育委員会や関係機関・団体と連携し、外国人児童生徒等やその保護者を対象に例年実施している就学支援ガイダンスを行いました。

「兵庫県にはどんな高校があるのか」など、各ブースで熱心に相談している姿が見られました。子どもたちにとって、進路に関する悩みを解決するヒントになったり、今後の学習や学校生活への取り組みを見つめ直したりする機会になったと思います。



『外国につながる子どもの日本語教育』

(西川 朋美 編著 くろしお出版 2022年11月30日新版第1刷発行)

現在、県内では、日本語指導が必要な子どもたちが約1,500人おり、(令和5年度)外国につながる子どもたちの日本語教育は、正面から向き合わねばならない教育課題の一つであることは言うまでもない。ただ、その子どもたちの日本語の力はというと、来日して日が浅く日本語が全くわからない子、日常会話はよどみなくできるが、授業の内容を理解するのに苦労している子など、さまざまな子がいる。本書の編著者は言語の専門家であり、言語としての日本語の知識を中心に、日本語教育の効果的な方法等を示している。日本語教材、日本語の評価など授業における実践例も示している。教員や、地域の支援者は言うまでもなく、日本語教育を学んでいる学生等、誰もが今後の実践に役立つヒントを与えてくれる1冊である。



★テラたまのひとりごと

テラたまが聞いたことや見たことをお話するコーナーです。

○サポーター交流会（１）

第１回サポーター交流会、１１人のサポーターさんがセンターにきてくれたんだ。

いろんな話ができてよかったって言ってくれたよ。参加できなかったサポーターさんの中には「オンラインはないのですか？」と問い合わせしてくれた方もいたよ。サポーターさん同士での交流を楽しみにしてくれているんだと思うと嬉しかったな。



○サポーター交流会（２）

第２回の交流会は、午前と午後に分かれてセンターに来る人・オンラインで参加する人という２部構成で実施したよ。

午前も午後も悩みを共有してアドバイスし合ったり、上手くいった支援の方法を話したりしたよ。“ふせん大作戦”という話が盛り上がってた！



※ふせん大作戦

- いろいろな大きさのふせんを用意しておくといい。
- 特に大切なことを書いて支援している子どもが分かるように貼り付ける。
- 声を出さなくて良いから先生の話も聞くことができる。
- 話しかけられることを嫌がる子どもにも使える。

○中央大学からの訪問（１）

東京から１１人の学生さんと池田先生がセンターにやってきたよ。「教育実地研究」という授業で、５日間かけて兵庫県の「多文化共生」の取組についていろいろな場所を見学したり、話を聞いたりしているんだって。センターでは兵庫県の取組を話したり、実際にサポーターさんにもきてもらってインタビューしたりしたんだよ。

もっとくわしく聞きたいことがあればセンターに連絡してください。

○中央大学からの訪問（２）

サポーターさんのお話で印象に残ったこと。

「その子が学校に入ってきて、どういう気持ちでいるか。不安な要素を取り除いてあげないといけない。そこで私たちサポーターは、何でも先回りをしてあげるのではなくて、子どもたちの表情を見ながら、悲しそうな目をしているのか、ニコニコしているのか、そういうのをちゃんと見ながら、支援をしなくちゃいけない。」

日本の学校にきてみんな不安なんだね。保護者の仕事の都合とかで日本に来ているから、本当は日本にきたくなかったかもしれないんだよね。そんな気持ちによりそってくれるサポーターさんはとても大切な存在なんだなって改めて思ったよ。

子ども多文化共生センター 芦屋市新浜町１－２

TEL : 0797-35-4537 FAX : 0797-35-4538 E-mail : mc-center@hyogo-c.ed.jp

ホームページから様々な情報を発信しています。 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

